

住民に大きな不安

袋中の神経 障害調査 水俣市議会で質問

水俣市定例議会五日目の十五日
は午前十時過ぎから本会議を開き
一般質問を行なった。松田(自)

徳田(革新)・森口(同友)・吉井

(自)・松山(革新)の五議員が質
問した。その中で松田議員が、熊

大がさきに発症した水俣病多発地
区の某中学校生徒の神経障害調査

を取り上げ「某中学校は水俣市の
中学校だと思ふ。あんな形で発症

されると将来の結婚問題など地域
住民に大きな不安をいたかせる。

不安を解消するための対策はある
か」とただした。和久田教育長は

「おたがひだした。和久田教育長は

学会で発表された論文や熊大関係
者に当たった調査の結果を細かく

報告した。それによると「中学校

は袋中のことである。熊大関係者
は不安を与え全く申しわけないと

言っている。勉強や作業には支障
はないが、指の屈折、鼻を指でさ

す試験、しゃがみ、閉眼時の片足
立ちなどで有機水銀の汚染の影響

が見られるので、今後の健康管理
が必要だと指摘された。また不安

感をなくすのに必要であれば立津
正順教授(神経精神科・公害被害

者認定審査会委員)らが出向いて

地域住民に説明してもいいと言っ
ておられます」と答えた。

徳田議員は袋地区で試運転には

いつている共栄合板KK(本社・水
俣市)と市の公営防止協定や、共

栄合板が行なった袋湾のしゅんせ
つによつて、水俣病再発の危険性

はないかどうかを聞いた。浮池市
長はこれについて「協定は大気汚

染、騒音、水質汚濁、海洋汚染、
立ち入り検査などを入れたものを

検討している。袋湾のしゅんせつ
については、熊大に調査を依頼し

たところ水俣病の原因になったメ

をもらつた」と述べた。

【注】袋中の神経障害について
は十一月二十八日の熊本医学会の
席上、熊大神経精神科、公衆衛生
学教室が発表、その中で「水俣病
多発地区の中学生は神経系統に先
天性水俣病症状がある」と結論づ
けている。